京阪神東雲

鳥取県立鳥取東高等学校同窓会
東雲会京阪神支部会報●第３号

連絡先　岡田俊一(山脈 12 回)
神戸市垂水区神和台 2-2-9

懐かしの母校風景

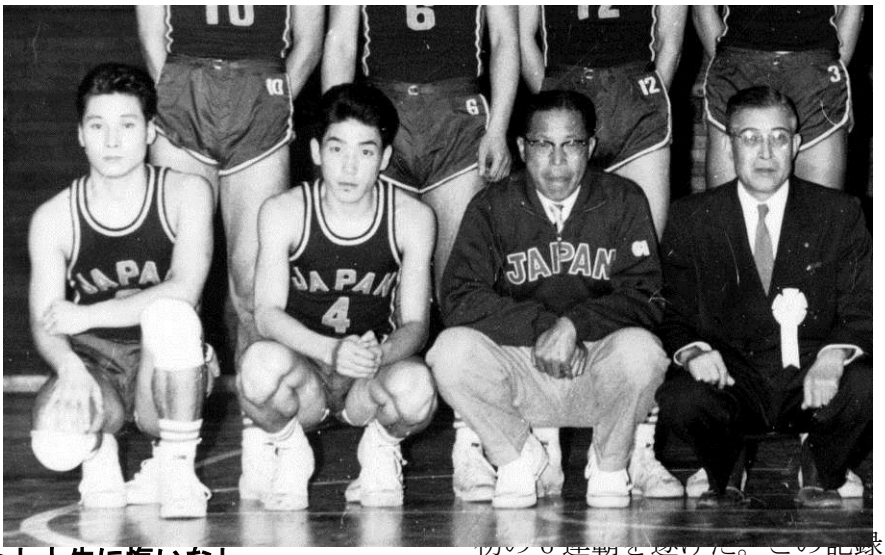
授業の開始を知らせる釣り鐘。岩中　健氏(柏葉 11 回)提供の卒業アルバムから。当時日赤病院前の向い側にあった広田写真館が撮影したものか。撮影時期は昭和 11 年 4 月ごろ。

現在は新しい校舎群がその跡に建設されている。下段、左から正門、中庭、新体育館。

遠き思い出

藤田　学（山脈３回生）

◎東高１年生７ルーム　東高を卒業して 46 年になるが１年７組の思い出は、今でも強烈にまた鮮明に私の心に刻みつけられている。初めての男女共学、少し照れくさくもあったが、浮き浮きしての通学であった。担任は早田悟先生。色が黒く、眼光鋭く、若さとバイタリティーに溢れ、厳しい中にも思いやりのある兄貴分のような親しみを感じる先生であった。常に我々の味方で、共に笑い、共に苦しんでくれた〝熱血先生〟であった。クラスが明るく、チームワークがよく、校内のスポーツ大会で優勝できたのも、〝結束の強さ〟の賜物であったと思っている。素晴らしい青春の思い出を作ってくれた「７ルーム」、素晴らしい先生と、仲間達との出合いをいつまでも大切にしていきたい。５年前、交通事故で突然他界された早田先生のご冥福を心から祈る次第である。



◎わがバスケット人生に悔いなし

（東高バスケットボール部）　バスケットボールは鳥取一中の２年生から始めた。当時の私はガリガリに痩せていた。昭和 24 年鳥取東高へ。猛練習で徹底的に鍛えられた。苦しかったが、技術が上達していくのが自分でも良く分かった。三好喬先生、蔵多宣夫先生という素晴らしい指導者、そして熱心な先輩達に恵まれた。名古屋国体では三位に入賞した。

（明治大学バスケットボール部）　昭和 27 年明大へ。当時の明大には、高校チームで実業団の名門、“日本鋼管”を破った北越商業（新潟）のレギュラー達が入った。そんな顔ぶれを見てレギュラーになるのはとても無理だと思った。東高の猛練習の御陰で練習は苦にならなかった。2 年生になったとき、監督は私をレギュラーに起用してくれた。しかし、この喜びも束の間で、関東学生選手権大会で、左のアキレス腱を切ってしまった。わがバスケット人生はこれで終わりかと悔し涙が出て仕方がなかった。1 年間休部した。夏休みは鳥取の砂丘を走り徹底的に足腰を鍛えた。3 年生になって復部したが「いつかまた切れるかと不安であった。秋のリーグ戦より監督は私をレギュラーに起用してくれた。学生生活の最後の全日本学生選手権では決勝で立大に敗れ二位に終わった。

（日本鋼管バスケットボール部）　昭和 31 年、日本鋼管へ。鋼管は公式試合 97 連勝の記録を持つ名門チームであった。監督は私をリーディングガードのポジションを与えてくれた。入社した 11 月、メルボルンオリンピックに日本代表として出場した。50 名の候補選手の中から数次の合宿の末、エントリーされただけに、喜びはひとしおであった。この他、アジア大会出場、国体優勝などあったが、特筆したいのは全日本総合選手権（天皇杯）での優勝である。入社した年に優勝、その後毎年優勝し、ついに史上初の 8 連覇を遂げた。この記録は未だに破られていない。昭和 37 年、通産 15 年の選手生活に終止符を打った。悔いのない選手生活を送れたのは、良き指導者、先輩、チームメートの御蔭であると心から感謝している。しかし、何といっても苦しいときに私を支えてくれたのは、「自分には東高で鍛えられたバスケットボールがあるのだ」「東高魂があるのだ」という自負心であった。ともあれ悔いのないバスケット人生であった。

（写真はオリンピック出場写真・前列左から二人目４番の筆者）

目標は鳥取東高水泳部

浜口　健（山脈 17 回生）

水泳部で落ちこぼれだった私が、30 年近くも水泳に携わっていることに、何か不思議な因縁を感じる。兄・姉が水泳をしていた関係で入部はしたものの、本当に好きだったのだろうか、疑問すら感じる。が、間違いなく東高水泳部は大好きだ。

長年、高校教師と同時に水泳部を指導している私にとって手本は、東高水泳部であり、目標でもある。就任当初、大阪大会の決勝すら、ただ一人も残れなかったチームを文武両道とは言わぬが、せめて人間性の確立を目標に、一歩でも、二歩でも東高水泳部に近づけるよう頑張る気持ちで一杯の毎日。指導者であった、宮脇通明・ホンダ義孝両先生に、追いつけ、追い越せと、練習に指導にと、試行錯誤の連続だった。インターハイへ出場し始めた頃、宮脇先生とお会いした会場にて、先生より「よく頑張っているな」と言われたときの嬉しさ、やっていてよかったと思うと同時に、これからも頑張れる勇気を与えてくれた。その言葉を聞きたくて続けたようなものだ。二十数年来、インターハイでの楽しみは、分厚いプログラムより東高選手の出場を確かめ、宿舎を探し、先生方との語らいであった。が近年は、ライバルであった、鳥工・八頭高すら姿を見せず、勿論東高も。出場しているのは西部の学校ばかりで、寂しい思いをしている。「水泳・鳥東」の復活が待ち遠しい。

「武」の方については、越えることは出来たと自負しているが、「文」についてはどうであろうか、まだまだ遠い存在だ。「人間性」については足元にも及ばない。今後も一歩でも二歩でも近づけるよう、精進を続けたい。

二生目を生きる

西尾　康弘（山脈 10 回生）

卒業して 41 年、今春 60 歳を迎えた日をさかいとする昨日と今日は取り立てて変化の事象はないにもかかわらず、何かと身体の衰えを痛感することが増えてきた。幼児期を過ごした鳥取の〝弁当忘れても傘忘れるな〟の気候風土が精神形成の基礎となり、耐え忍ぶ根気を身につけてくれたことは否定出来ません。〝人生塞翁が馬〟を頭においた七転び八起きの人生をじっと我慢し、冬来たらば春遠からじと過ごし、今は永年勤めた会社の会社関係に勤めの身です。　平均年齢が伸びた今日、人生に山が一つから二つに増え、「一身にして二生を経る」という生き方を余儀なくされています。二生目を 20 年、30 年と生きなければならなくなりました。それをどの様に過ごすか、その生きざまが人生評価ともなります。その選択肢が多様化する今日、人それぞれの判断で行動することが求められています。

伊能忠敬は数え 50 歳で隠居するまでは下総の國の庄屋の旦那であった。隠居と同時に星学暦学を勉強し、蝦夷地測量に出発したのが 56 歳、それから 72 歳までの 16 年間、愚直なまでに「２歩１間」の歩幅で日本全国の海岸線３万５千 km を歩測し、実測による日本地図を完成させた。「四千万歩の男」（井上ひさし著）によって伊能忠敬の人生を知り、平成元年春、私も 50 歳を目前にして何かに挑戦しなければと、忠敬の知的挑戦には及ばないが挑んだのがスキューバダイビングです。

幸いにして東京勤務時代、社宅から数分の近隣に我が国草分けのダイビングスクールがあり、座学・プール・伊豆神子本町での実習と延べ２週間の講習でＣカードを取得しました。受講者のほとんどが 20 歳台で 50 歳前後の者は少なく長老扱いでもあった。Ｃカード取得後、比島セブ島へ直行、ここで華やかな熱帯魚と珊瑚礁に魅入られ、その虜となりました。その後、久米島・西表島・パラ

オ・モルジブ・フィジー・豪州グレートバリアリーフ等の南太平洋の島々を妻と二人で巡っています。そこでは、

・可憐なクマノミ
・頭上を群遊するマンタの編隊
・湧き上がるギンガメアジの群れ
・悠然と泳ぐナポレオンフィッシュと海亀
・至近距離で見るシャークフィーディング
・ナイトダイブで出会う魚の立ち寝姿

などに遭遇し、また

・ドロップオフで出会う魚の群れ

いずれも次々に私を魅了し、次のダイビングプランを駆り立てます。

ダイビングは勝負を競わないスポーツと云われ、自分のペースで１日に２～３本、１本40分余のダイブは年齢を問わないで楽しめます。潜行すること2～30メートルの海中の極彩色の魚と回遊魚の群れ、そしてサンゴの異次元の世界であり、人生観を刺激してくれます。リゾート地には世界各地から多くのダイバーが来ます。滞在者との交流と海中のボディーランゲージの会話は仲間を増やし、ホテル生活に楽しみを倍加してくれます。また、ダイビングボート上での現地人との交流も楽しみの一つです。そこでの会話は他愛もないものですが、庶民の生活を垣間見ることができます。現地人との交流はカタコトの英語と身振り手振りで通じますが、挨拶やお礼の言葉は現地語で言えばさらに親近感も高まります。宿泊するホテルの他には民家も無く、１周 20 分程度のサンゴ礁での１週間の生活は日本語の生活から隔絶させ、時間の拘束から解放されその概念をも忘れさせてくれます。未知なるもの、未経験なものへの挑戦は適度に脳を刺激し、退化を防止してくれることと確信しています。

思えば、中学校の時に初めて大山や氷ノ山に登り、その素晴らしい自然の美しさの虜になって以来、北海道をはじめとして各地を彷徨しました。直線で30余kmの鉄道線路が続き北海道の原野に驚愕し、利尻山から屋久島宮乃浦岳へと全国の山々を巡るピークハントを通じて高山植物に魅了され、蔵王・八方尾根などのスキーとその記憶も鮮明です。二生目の今、豊富な時間にどのように挑戦を展開するか。49歳から始めたスキューバーダイビングは二生目のスポーツとしてゴルフとともに定着してきました。ユネスコ世界自然遺産をキーワードにして日本から世界へとウイングを拡げるべく情報収集の真っ只中。

ゴーギャンが初めた最後の楽園タヒチ、往年の名画「南太平洋」や「チコと鮫」の舞台を尋ねて、ダイビング三昧／アラスカやニュージーランドの氷河を眺めるトレッキング／アフリカの大地を真っ赤に染める太陽を背にして走るサファリドライブ／忽然と消えたインカ文明やマヤ文明の遺跡を訪ねる旅／ドイツのロマンチック街道を南下するドライブ

等と好奇心を駆り立てるプランは盛り沢山です。

私は健康である限り、ウイングを拡げスパンを伸ばし、冒険心を失わず好奇心を満足させるべく、新たな地図を開き挑戦を続けます。

返信葉書（平成11年度）の近況報告から

１年に一度のしかも１年遅れの近況ですが、会員の皆さんの貴重な交流の場でもあります。総会出席の可否の欄の短信欄にぜひ近況をお書き下さい。（係）

＊　＊　＊

○まあまあ元気です。（柏葉５回／福井正信）○「福は積善に在り」と信じて今年で 32 年元気でライオンズの奉仕活動に従事しています。（柏葉22回／木下一郎）○戦中戦後の時代を鳥取二中で通し約半世紀、やがて古希を迎えようとしています。会員の皆様のご活躍を祈っています。（柏葉22回／加島久）○今夏鳥取での、二中同期会に出席し校歌と「稲葉の山の風清く」の応援歌を高唱。懐かしい一夜でした。（柏葉 22 回／高島誠）○老骨を軋ませながら、コマ鼠のように動き回っています。高脂血症から逃れるためにも。（柏葉23回／河野延雄）○当日会社行事（技術大会）のために出席できません。皆様によろしく。旧制二中の最後の卒業生です。当時学制改革により鳥取西高３年生に編入されました。現在近畿西高同窓会長をさせていただいています。つまり二足の草鞋ですが、京阪神東雲会にも参加させていただきます。現在三洋電機の副会長（昨年６月社長退任）をしています。今後ともよろしくお願いします。（柏葉 23 回／高野泰明）○鳥取で永住するため、７月に転居しました。現在家を新築中で仮住居です。（山脈 4 回／谷口健二郎）○フィリピンにて勤務しています。（山脈５回／藤田義克）○今年から海釣りを始めました。月１回同好者と船釣を行っています。ゴルフより実益がある分、妻も喜んでいます。（山脈 7 回／丹松克男）○孫がやっとできました。女の子です。（山脈８回／大島正二郎）○戦後最も

自由な時に子供時代を過ごした者として現在の暗雲を晴らさねばいけないと、幼稚園の子供を見ながら感じます。(山脈9回／宇山進)○病気療養中ですが、回復が近いと思います。(山脈10回／原佳歳)○勤続20年にて永年勤続表彰され、北海道へ５日間旅行へいって来ました。元気にがんばって勤めています。(山脈 12 回／川口紀子)○鳥取へUターンしました。今後鳥取東雲会へ入会しようと思っています。(山脈 14 回／矢部純子)○勤務校で今度「芦屋フォーラム」研究大会を開催したところ鳥取からも 21 名の先生方が来て下さいました。1500 名の大会になり、ＴＶ中継で会場に入れなかった先生には、各教室でみていただきました。(山脈 15 回／田村寿秀)○子供達も社会人となり、気楽な反面さびしくなりました。宝塚に住んで鳥取東高の事を懐かしく思い出す今日この頃です。(山脈15回／守田綾子)○11 月 20 日は初孫を、抱いている頃かと思います。50 歳の節目をむかえ、どう生きるか、新たな気持ちで考えています。(山脈19回／横川ひとみ)○9.21 台湾大地震に遭遇しましたが、幸い震源より遠く、大きな揺れは感じたものの、事なきを得ました。皆様のご多幸とご活躍をお祈りします。(山脈26回／大原清志)○一人息子も来年より小学生です。28 期の方、参加されていますでしょうか。お会いしたいですね。(山脈 28 回／林美登利)○結婚して１年経ちました。京都の新居にも、鳥取東高時代の友達が来てくれました。高校時代の友達は宝です。(山脈39回／松岡千里)

本年度第50回総会へ向けて

それはたった二人の事務引継から始まった。人脈を辿って同期に呼びかけ、14 名が集まった。「まずは会場を押さえることが先決。」との先輩のアドバイスで何カ所か問い合わせ下見をして３月段階で都ホテルに決定した。また、ゲームの景品集めには、デパートを隅々まで見て廻った。いつもの買い物とは違うおもしろい経験だった。

使命感と熱意を持ちメンバーそれぞれが得意の分野で持ち味を出し、7月 23 日(日)の拡大幹事会で総会の内容が決まり準備が着々と進んでいる。残すは当日の出欠状況を心配するのみとなった。案ずるよりも産むが易しだ。記念すべき 50 回の総会の企画、運営に山脈17回が参加出来、皆満足している。さすが団塊世代のパワーは健在なり。皆様、総会に集いおおいに語り合いましょう。

（当番幹事山脈17回スタッフ一同）

寄稿　偶　感

上田　二郎（柏葉１１回生）

人間は生きている限り何等かの目的をもっているものです。健康や、長生きをすることは誰もが願っていることですが、現実には仲々困難なことです。国民の平均寿命が伸びたことで誰もが長生きができるように見えます。

85 歳を過ぎてなお健康な人は非常に恵まれた 1,000 人に数人位の割合だと云われています。これらの人達は良い遺伝因子を持って生まれた方でしょう。

しかも、この数人の男女別の比は、男１に女２位の割合のようで、こと長寿に関しては女性の方が圧倒的に有利のようです。サラリーマンの定年を過ぎた方について見ても自分は健康だと思っていてもその７割くらいは成人病にかかっているようです。本当の意味での健康といえる人は１割位に過ぎないと云われており、健康で長生きをすることは至極困難のようです。

成人病対策で大切なことは、手遅れの成人病はなかなか癒りにくいという認識を持つことです。代表的なものは、癌や循環器系の病気等があげられますが、一定のレベルを超えると完治は極めて至難のようです。

従って、手遅れにならないように特に留意することが大切ですが、自分で体調がおかしいと思って病院の門を叩いても既に手遅れになっていることが多いようです。それではどうしたらよいか、それは自分自身の健康を過信しないことが大切で、努めて毎年１回は設備の整った病院で健康診断を受けることです。

多くのサラリーマンは自分の仕事に生き甲斐を感じて働いています。従って定年退職後は、毎日が日曜日ですることがなくなると考えがちですが、これが大変な間違いなのです。
おのおのが趣味を生かし、例えばゲートボール、散歩、山登り、民謡等友人関係を大切にして明るい人生と、健康な体を造らねばなりません。
刻々と迫る老齢化社会に対して、政府や自治体ではいろいろ対策を掛けてくれていますが、それとて限度があります。そんな対策を掛けててもらってもそれだけで老後が幸福になるわけではありません。

自分の幸福は自分自身の手に依って勝ち取らなければ真の幸福はやって来ないということを忘れてはなりません。人生を楽しく「すこやか」に過ごし長寿に恵まれたものです。

古代東高 思い出シリーズ

－思い出の先生方－
第三回
倉恒　貞夫
（本部同窓会副会長・山脈３回）

私は昭和 24 年(1949) ４月、東高開校(開校式は４月 12 日、工業の体育館で行われた)のとき、１年生として入学し、昭和 27 年(1952) ３月に卒業しましたから、３年間東高に在学した卒業生としては一番古い卒業生ということになり、ひそかに何となく、勝手に威張って(？)います。

４回生と我々３回生とは大変変わった関係にありました。というのは、我々３回生は、旧制中学、女学校の最下級生として、中学校３年間ずっと下級生なしに来ましたし、４回生は、新制中学校の最上級生として先輩なしに３年間過ごして来て、昭和 25 年東高に入学して初めて上級生の我々がいるということになったからです。

前にも述べましたが、高等学校統廃合による学区制でこのとき東高には、東中、南中、岩美郡県外からの受験生が新入生として入学して来ました。北中、西中、気高郡は西高。当時の日本海新聞は、東高が最も難関校だと書いています。

それで、３回生は下級生の扱いに慣れていないし、４回生も上級生というのはどんなものかどう接してよいかわからない――しかし、戦後の民主・独立・平等・自尊・自治などの考えに従っていましたから少しずつとけあって来て、非常によくなったので

５回生は我々が３年生の時の１年生。私個人で云えば、６、７回生は知りませんが、大学を卒業して、東高に教師として帰って来た時には８回生が３年生、９回生は２年生。そして 10 回生は一緒に東高に入学したということです。

10 回生も、もう還暦を迎える年齢となった様ですが、この時の新入生の中には、今の東高の校長の田村先生、校医の岸田先生もおられます。それから昭和 38 年まで東高におり山脈 16 回までの卒業生は知ったり知られたりしていると思います。昭和 38 年から昭和 46 年まで新設の西工業。また昭和 46 年に東高に帰ってきました。山脈 23 回(昭和 47 年３月卒)が３年生、以来平成６年定年退職。それ以後講師として授業や華道部の顧問として東高に御世話になっております。

東高の歴史の流れとして①開校のころ②昭和 31 年～37 年(何故 37 年かというと、昭和 37、38 年ごろよりベビーブームの余波で、高校急増、私は新設の西工業に行きました)③昭和 38 年、東高も１年生はそれまでの６クラスが、12 クラスになり 300 人ぐらいだったのが600人以上となり(山脈17回)学校もずいぶん変わってきたようです。

古い資料をさがしてしていましたら、井上竹男先生の補習プリントや、私のノートが出て来ました。井上先生は、昭和 24 年～39 年まで、東高におられて、米子工専の教授として行かれた方です。解析Ⅰ、Ⅱ、と数学の分野がなっていますがテキストがかなりの部分英文で書いてあります。プリントに私も単語を引いて訳をつけた跡も処々にあります。思えば、テストにも英文で書いた問題もあったのでは、と思います。ノートの方もタイトルなどほとんど英語で書いています。英語がよくわからなかった生徒はどうだったのでしょうか。平均点が 100 点満点で 0.25 という時がありました。井上先生の授業は、『水の高きより低きに、おもむくがごとく』、順列組合せなどでは中国美人と、西洋美人と、手を握るコタツの座り方、――本当はもっと強烈な表現?!――など、独特の表現と教え方でした。先生は大変タフで、コリ性で、例えば、テニス。毎日、朝早くから、一日中(暇さえあれば)中庭のコートで、練習しておられました。その相手をされていた井村先生は、それで身体をこわした、などと話されたことが、特に鮎釣。朝まで釣って学校に漁獲を持って来て見せて、そのまま、授業をされたり、あれはどういう風か今では考えられないのですが、朝から宿直室で、囲碁。

あの当時の先生方は、大らかな生き方をしておられたようです。さらに、井上先生は、尺八の大家で、臨海学校で、諸寄の小学校に宿っているとき、諸寄の琵琶の先生が聴きに来て、丁重にあいさつをして

おられたことがありました。

鳥取県の囲碁界の本因坊、囲碁名人などNo１の松本二郎さんは、井上先生に手ほどきを受け、やがて先生より上手になり、先生に囲碁の相手をし、そのかわり今度は先生の尺八を習うと云う交換指導をしていたようです。

化学は藤井睦雄先生に習いました。
先生は身体がお丈夫でなく、東大の研究室から郷里鳥取にお帰りになり、東高で化学の指導をされたわけです。当時の化学の教科書は「大日本図書」のものでしたが、その本の中の実験は全部生徒にさせられました。実験数も80～100ぐらいあったのではなかったでしょうか。生徒各自が、それぞれ実験し、レポートを書いて提出、それを採点して返す――大変な作業だったと思います。藤井先生も、化学の項目などには必ず、英語を付けて指導されました。当時の東高の先生方は英語がわかってあたりまえということだったのでしょうか。お陰様で大学に行ったとき、英語の術語など、何となくわかったような気がして楽でした。

国語は昭和32年福知山駅で、列車事故でなくなられた藤原先生に習いました。先生は台北大におられたということで、中国語で漢詩など読まれたりしました。試験問題が大変でした。プリントは用紙裏表ひっしり書かれ、２枚も３枚もありました。そしてその採点は皆の答案に赤字で丁重に直し、いろいろ感想など書き込まれて返されました。当時先生は、智頭の方から列車通で、大きな鞄にパンパンに答案を入れ、列車でも採点しておられた様です。先生は校歌の作詞もされました。静かな方で、号を『氷華』としておられました。自分の中には炎が烈しく燃えている――。

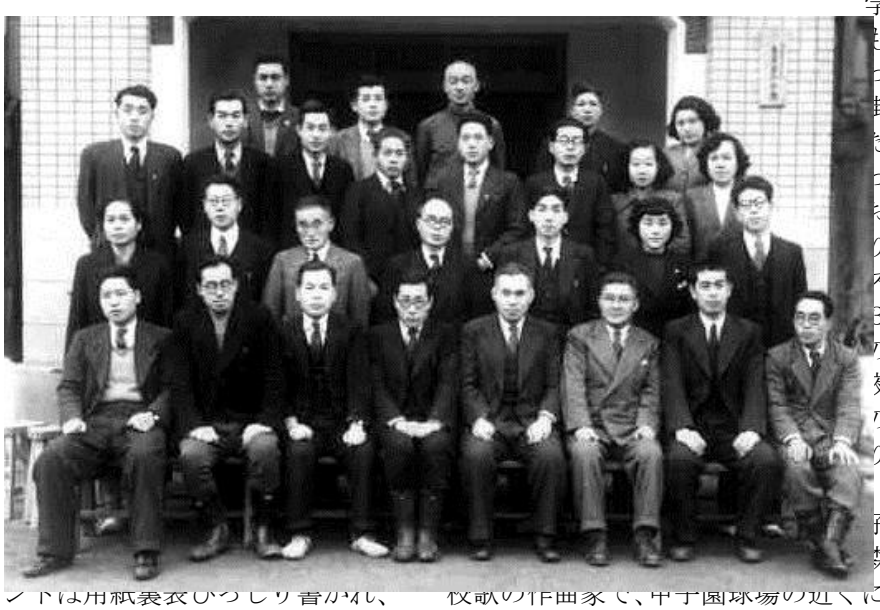
国語のもう一人の先生、旧姓尾崎先生、結婚されて米山美代子先生、ふくよかな美人でしたので「平安美人」とニックネームを献上し我々が２年生の時に結婚されたので、当時は流行歌で高田浩吉の『土手の柳は風まかせ…』という歌がはやっていたのを変えて『米山オカメはトトまかせ…』などと歌いまくったので、担任の前田寿男先生(マーボー)が職員室から飛んできて、「歌うのを止めぇー」と叱られました。しかし、その時は他のクラスが同じ歌を大声で歌って助けて呉れるなど、担任は学校中行ったり来たりがありました。

教頭の中村高士先生も国語でした。口ぐせの言葉があって、今日は何回だった、など数えるものがありました。中村先生は『柏舟』という号でした。ニックネーム『かばさん』でしたので＜海行かば、水くかばね＞など、カバのところを強調してこれも大声で、教室で歌い上げました。社会は２年３年の担任でもあった前田寿男先生、世界史、＜ゲルマン民族の大移動＞＜ナポレオンの一生＞など立板に水の名調子で語られました。＜ナポレオンはしみじとしたところのない男だったけろ＞名調子が出ると、語尾がチョットあやしくなるのですが、我々はすっかり感激しました。

物理の横川先生は、我々の隣のクラスの担任で、横川クラス、前田クラスは旧制中学から来た男子ばかりのクラスでしたから、一緒のクラスみたいなものでした。学校中、我者顔で大暴れ、毎日々大騒ぎで、大変楽しくやりました。あれはどう云うわけか、学校でも、街でも、何人か集まって、ぞろぞろ街を歩いたり、だれかの家に行ったり、先生のお宅にも行ったりしました。テストの前は２～３人ぐらい互いの家に行って徹友で、一夜づけの勉強をよくやりました。

音楽の田中妙子先生(現在は、柴山先生、東高校歌の作曲家で、甲子園球場の近くに住んでいられ、東高の校歌が、まだ甲子園で流れないが、いつになったら聞かせてもらえるのといわれます。)のお宅はオオチダニ神社の入口のところにありましたが、何人かでおしかけ、ピアノを弾いていただいて、皆で歌ったりもしました。今思えば、独身の女の先生のお宅に男の子が何人もおしかけ夜遅くまでさわいでいたのです。

３年生の時の正月は、集団で担任の先生や勉強を習っている先生のお宅を襲って上がり込み食ったり飲んだりするもの(?)をねだったりなどもあったかな？



	宮脇	中尾	山崎	治部田	本家		
森本	山崎	川口	谷口	三橋	山本	米山	角
増賀	井上	若松	北脇	藤井	橋本	前田	
早田	横川	中村	山下	西村	橋本	鈴木	藤原

鳥取東高校教職員一同・昭和２７年３月撮影

卒業してからは、やはり、先生方のお宅へいろいろ話をしに行ったものです。他の学校ではこのようなことがあったでしょうか。

物理の横川先生の時間には、皆がいろいろネダって、物理ではない話をしてもらいました。時に酒の飲み方も。当時は酒のないころでしたから、焼酎の飲み方、――番茶で割るとか、サイダーで割るとか、飲んでから鼻をつまんで走るとよく酒がまわるとか――など。

したがって、臨海学校では、先生方の寝られた後で、諸寄の海岸で、ヤカンに焼酎とサイダーを入れて、皆で走り回る実験もやりました。

臨海学校については、あとでまとめて書きたいと思います。

東雲会総会にて 母校創立80周年〔平成14年〕記念事業を承認

去る8月5日(土)鳥取市白兎会館にて今年度東雲会総会が開催され、議案の一つとして「創立80周年記念事業について」が付議され承認されました。内容は次のとおりです。

1〔1〕記念誌の発行
〔2〕同窓会名簿の発行
〔3〕同窓会館・研修館・食堂の建替
2　同窓会館等建替支援のため同窓会員から4,000万円目途の寄付を募る。

具体的なことは今後決定されますが、いずれ来年に向けて寄付の依頼があるものと思われます。その節は趣旨に鑑みよろしくお願いします。(副会長　上林　武夫)

会費およびカンパの郵便振替口座現在高は次の通りです。
平成12年7月19日現在641,997円。

本年度も京阪神支部運営費として年次会費カンパとして一口1,000円をお願いしております。総会参加者からは、当日の懇親会費用の中に含めて会費を頂きます。欠席の方の、会費(カンパ)振込は郵便振込口座番号 00900-0-85765、「加入者名　京阪神東雲会」へお願いします。振込人住所と共に卒業年次を山○○というようにお書き下さい。

会計幹事　鈴木　亮介(山脈11回)

★編集後記★　第3号ができあがりました。今回は運動部に関係した方を中心に原稿を頂きました。広く会員に皆様からの近況報告や同期会等の投稿をお待ちしています。毎年7月10日が締切です。E-mail をお持ちの方は、sdi00397@nifty.ne.jp にメールを下さい。題字は上田先輩。カットは山崎(山12回)によります。(係)

平成11年東雲会京阪神支部総会の報告

平成11年11月20日(土)天王寺区のホテル「アウィーナ大阪」にて、午後2時より京阪神東雲会を開催。八村東雲会本部会長、田村鳥取東高等学校校長、谷口東雲会本部常任幹事、幸村山脈 17回幹事、長本先生(恩師)、山脈 16 回生多数鳥取からの来阪を始め125名の参加がありました。

当番幹事の開会の挨拶で始まり、野田京阪神会長挨拶、八村本部会長の京阪神東雲会の益々の発展、激励のご挨拶を頂き、田村校長より進学、クラブ活動等、母校の活気ある近況報告がなされました。

議事に移り、野田会長より平成10年会計報告・役員改選にうつり、タイムカプセルを巻き戻したような思い出に花が咲き、各テーブル・会場のあちこちで、鳥取弁が行き交う楽しい一時を過ごす中、16回生による「きなんせ節・フォークダンス」のアトラクションで会場を盛り上げ、故郷鳥取の様子を映したビデオを放映するうちに、アッと言う間に終宴の時間になり、全員で鳥取二中・鳥取東高の校歌斉唱、次回幹事(山脈 17 回)の紹介、上林副会長の閉会の挨拶となり来年も再開することを楽しみに散会しました。(N)　写真は総会風景